

日本医師会インターネット生涯教育協力講座＜外来で遭遇する皮膚疾患とその対応＞

外来で遭遇する皮膚疾患とその対応 - 1

皮膚の構造と特徴、発疹の種類

● 総監修 ●

大阪大学大学院医学系研究科

情報統合医学皮膚科学講座

片山 一朗

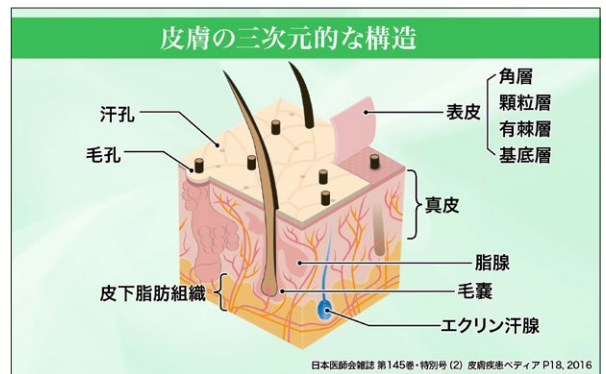
皮膚の構造と特徴、発疹の種類

【1】皮膚の構造と特徴

- 病院や診療所を受診される患者さんは、どの診療科であれ、何らかの皮膚疾患を持っていることが多い。
- 皮膚疾患について患者さんから相談されることもあるため、専門外であっても患者さんの相談に乗り、専門医に紹介するタイミングを把握しておく必要がある。

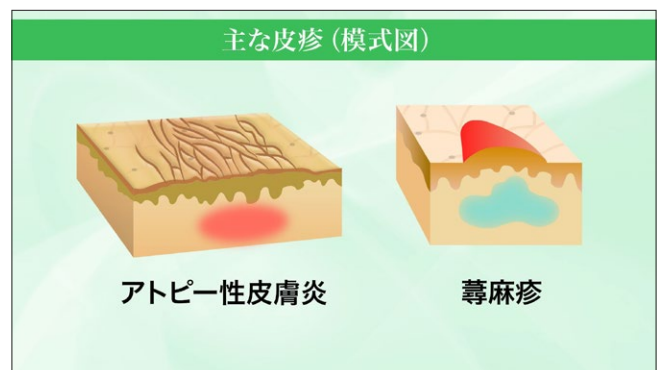
○皮膚の解剖

- 表皮は、基底層で細胞分裂により恒常的に新しい細胞が供給される。
- 真皮は毛細血管・膠原線維などが存在しているが細胞分裂は乏しい。



○皮疹の生じる場所(典型例)

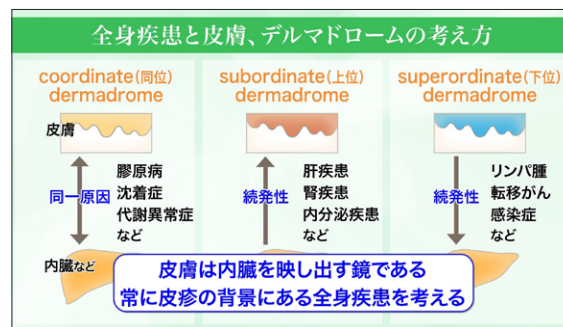
- アトピー性皮膚炎などは表皮と真皮に皮膚症状が現れ、真皮は炎症、表皮には慢性刺激による皮膚の肥厚がみられる。
- 蕁麻疹は、真皮に限局性の浮腫が生じる。



【2】発疹の種類

○全身疾患と皮膚との関係

- 皮疹は全身疾患と密接な関係にある。皮膚と内臓が同じ原因で疾患が生じる場合があり、膠原病、沈着症、代謝異常症などがあげられる。
- 内臓疾患が原因で皮疹が現れる状態は、肝疾患がよく知られており、その他、腎疾患による皮膚の乾燥や痒み、甲状腺機能低下症など内分泌疾患などによっても皮疹が生じる。
- 皮膚疾患が内臓に影響を及ぼす場合もあり、リンパ腫、転移がん、感染症などがある。
- このような臓器疾患や悪性腫瘍に伴って生じる特徴的な皮疹をデルマドロームと呼ぶ。
- 皮膚は内臓を映し出す鏡であり、皮疹を診る場合には局所だけでなく全身疾患と皮膚の関係について考えることが重要である。



【3】まとめ

- かかりつけ医は、今後、訪問診療に関わることが多くなると考えられるが、在宅の患者さんの多くが皮膚疾患を抱えているといわれる。
- 外来であれ在宅であれ、診療する皮膚疾患は同じである。
- かかりつけ医は皮膚疾患に対して興味を持ち、積極的に治療に関わっていくことが望まれている。